

編集後記

- ◇2010年の気象は異常であった。春の低温、夏の猛暑、秋が短く一足飛びに冬を迎えた。地球の温暖化現象が顕在化する中で、根菜類であるサツマイモ、ジャガイモの生育に及ぼす影響は、水稻、果樹などの地上部利用作物に比べれば小さいと言われてきた。だが実際に、温暖化がいも類の生産量、品質に及ぼす影響がどの程度あるのか、試験データ、現地情報をもとに解析が迫られているのではないか。特に平成22年産の場合、各方面からサツマイモ、ジャガイモの収量、生理障害を含む品質に及ぼした影響が指摘されており、その必要性を強く感じている。
- ◇2010年の日本経済は、外国為替市場で円高に推移したこともあり厳しい状況にある。また、2010年11月現在の日本の累積借金は862兆円に達し、国民一人当たり換算では700万円に相当するという。今後、少子・高齢化が加速することを考えると、近い将来、容易ならざる事態が予想される。新しい2011年は、この状態が一步でも改善されることを願っている。
- ◇秋は、いも類関係の行事も多かった。「サツマイモの日」の10月13日、第16回「いも供養」が川越市の妙善寺で開催され出席した。11月2日には、東京国際フォーラムで、農水省委託プロジェクト「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術開発」の成果発表会が開催され、サツマイモ、ジャガイモの新品種紹介と加工品の展示もあった。更に、11月12～13日には、東京ビックサイトで「第49回実りのフェスティバル」が開催され、農研機構、関係企業の協力を得て「いも類ブース」を開設し、普及啓発活動を行った。
- ◇本誌106号の特集は、平成22年に育成された「いも類新品種の紹介」を企画した。サツマイモでは「こなみずき」、「サツママサリ」の2品種、ジャガイモでは「ピルカ」、「コナユキ」の2品種の計4品種の解説を研究者の方々をお願いした。今回紹介した新品種が農業者、消費者等の支持を得て、普及拡大して欲しい。
- ◇「安納いも」の歴史、現状と課題、将来について、知人の落合浩英さんに寄稿をお願いした。落合さんは、鹿児島県庁で農業普及行政、試験研究に従事し退職後、故郷種子島の西之表市長を務められた。今も、サツマイモに深い関心を寄せられている。「安納いも」は急速な増産に伴い課題もあるが、その解決への取り組みが始まっている。「安納いも」の銘柄を盤石のものとし、種子島の産業振興に結びつけていただきたい。

(狩谷 昭男)

いも類振興情報 第106号

2011(平成23)年1月15日発行

発行 財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社